

## 施策評価シート

施策等名称	八ヶ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

## 1 施策基本情報

現状と課題		・地域を取り巻く社会環境は、急激な変化を遂げており、市民の学習要求の多様化・高度化に対応し、様々な地域課題や生活課題を解決するために、社会教育の重要性は高まっている。 ・更なる学習の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に推進するとともに、地域・学校・行政の連携による推進体制の整備が望まれている。 ・学習ニーズを的確に把握し、市民の生涯にわたる自主的な学習活動が活性化するよう、様々な学習機会の提供や内容の充実、推進体制の整備が求められている。						
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)		「市民が郷土の自然・風土やそれを舞台にして生きてきた人々の歴史や生きかたを正しく理解し、守り生かし、先人の叡智(えいち)に学び、深く郷土を愛し、その未来を創造する素地を養う学習館」としての役割を担っています。今後は、科学教育振興の拠点として、プラネタリウム投影・自然観察や科学工作などの講座を開催し、科学に親しむ機会を充実させていく。						
施策指標	指標名称		指標の説明(単位)		計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値		
	①	年間入館者数	人		13,445	17,500 20,000		
	②	プラネタリウム視聴者数	人		2,109	4,500 5,000		
	③	市民研究員養成事業参加者数	実質人数(人)		65	80 100		
施策の柱1	名称	博物館の運営と機能の維持			主管課	文化財課		
	詳細	貴重な資料を収集し、良好な状態で保存し、世代を超えて引き継いでいくとともに、調査研究した成果を教育に活かす。						
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分		
	1	企画運営会議案件数	会議案件数(件)	2	3 4	1 博物館運営事業	実施	
	2	収集資料数	資料数(点)	50,000	51,500 53,000	3 資料収集・保管事業	実施	
	3					4		
						5		
						6		
	基本政策間連携							
	施策の柱2	名称	博物館事業の充実			主管課	文化財課	
		詳細	時代に即した新たな手法を導入した常設展示、充実した施設設備、魅力ある事業展開で、多くの市民が学ぶ場としてにぎわう博物館を目指す。					
		まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
		1	年間入館者数	人	13,445	17,500 20,000	1 特別展等事業	実施
		2					2 ハヶ嶽岳麓文芸館事業	実施
3						3		
						4		
						5		
						6		
基本政策間連携								
施策の柱3		名称	科学教育の振興			主管課	文化財課	
		詳細	プラネタリウム事業を始めとする科学教育を推進することで、21世紀の科学時代にたくましく生きる市民の育成を図る。					
		まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業 区分	
		1	プラネタリウム視聴者数	人	2,109	4,500 5,000	1 プラネタリウム事業の推進	実施
	2					2 科学教育事業の推進	実施	
	3					3		
						4		
						5		
						6		
	基本政策間連携							

施策評価シート

施策等名称	ハケ岳総合博物館の充実	体系番号	0201020103
		主管課	文化財課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策の体系	施策の柱 4	名称	産学公民連携の推進			主管課	文化財課	
		詳細	産学公民の連携を進め、生涯学習活動の拠点のみならず、人的交流・観光交流等の拠点として、総合博物館をまちづくり・ひとづくりの要衝へと発展を図る。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1	市民研究員養成事業 参加者数	実質人数(人)	65	80 100	1 市民研究員養成事業 2 学校支援・連携事業(博物館運営事業と関連)	実施 実施
	施策の柱 5	2					3 公立大学法人国防東京理科大学連携事業(博物館運営事業と関連)	実施
		3					4 博物館等各種施設との連携事業(博物館運営事業と関連)	実施
							5	
							6	
	基本政策間連携							
	施策の柱 6	名称				主管課		
		詳細						
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1					1	
	施策の柱 7	2					2	
		3					3	
							4	
							5	
						6		
	基本政策間連携							
施策の柱 8	名称				主管課			
	詳細							
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分		
	1					1		
施策の柱 9	2					2		
	3					3		
						4		
						5		
					6			
基本政策間連携								



施策等名称	ハケ岳総合博物館の充実					体系番号	0201020103	
						主管課	文化財課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項 目		2018年（前年度比）		2019年（前年度比）		2020年（前年度比）		2021年（前年度比）		2022年（前年度比）		2018年～2023年（総括）		
投資額	事業費(円)	39,040,879		31,503,217	0.81	27,983,020	0.89	30,760,000	1.10	37,401,000	1.22	33,845,754	0.90	
	うち一財(円)	33,557,599		30,013,927	0.89	27,284,660	0.91	29,619,000	1.09	36,266,000	1.22	32,456,944	0.89	
	(2018年～2023年(総括)については2023年の実績を記載)													
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)													
評価	進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		やや遅れている		やや遅れている		おおむね順調		おおむね順調	
	総合評価	主な取組内容や成果	・開館30周年記念事業を実施し、多くの入館者があった。新しいメニュー(地域観覧会、毎月お楽しみ会、プラネタリウム特別投影、アコールドイベント、自然観察路)を生み出し、博物館利用の選択肢を増やすことができた。・モバイルプラネタリウムの視聴者は、着実に増加している。多くの市民の科学への関心が高まっている。・市民研究員養成講座(第2期)に実質79人の参加があり、30人が認定された。認定者には、より博物館活動に関わってもらい、自然や文化に関する資料が多数収集、蓄積されている。		・坂本養川と堰についての常設展があるが、来館者からの要望があったが、説明する資料がなかった。企画展を開催し、資料を発行することができた。・モバイルプラネタリウムは、昨年度に続き着実に増加している。地区公民館への出張も増加している。・市民研究員養成講座(第2期)の参加者は、95人となり、増加した。・収蔵庫内の未整理資料は、着実に台帳化が進んでいる。		・収蔵庫の資料整理は、未整理資料、新収蔵資料併せて4,278点の整理ができた。・新型コロナウイルス蔓延により、多くの事業が中止となったが、星景写真展を開催することができた。これまで、ハケ岳について聞かれることが多かったが、ハケ岳の主要峰を記した絵葉書を作成した。		・新型コロナウイルス蔓延により、休館を余儀なくされたり、多くの事業が中止となったが、その期間を利用し、資料整理を進めることができた。・市民研究員養成講座第3期では111人の参加があり、23人が認定された。研究員はより専門的な活動を行い、自然や文化に関する資料が多数収集された。研究員の活動のうち、成果の一部を「諏訪地方の語り伝承第3集」として発刊し、広く市民に提供することができた。		(R4・総括評価共通) ・市民研究員養成講座第4期が始まり、人員が確保されたため、人数は減ったが、質的に活動を進めた。調査研究の成果の一つとして、暖かいところで見られないシダを諏訪地方で発見することができた。・WITHコロナの考え方が定着し、徐々に客足が戻ってきた。プラネタリウムは人数を制限するものの、団体対応や出前講座に出かけることができた。・収蔵庫に収蔵スペースを作ったり、見やすい配置となったりするよう整理を進めた。・国立諏訪研究所等と共同主催で天文に関する企画展を開催した。年度末には学習協定を結び、来年度以降の調査・研究・発表につなげる準備が進んだ。		・市民研究員養成講座では、活動発表の展示だけでなく、研究成果の発表を行い、成果を市民に還元していく方向を見出した。・プラネタリウムは徐々に上映希望団体からの申請が増えてきた。人数を制限するものの、団体対応や出前講座に出かけることができた。・文芸館の展示を再開することができ、新収蔵資料を市民に公開することができた。・高校・大学との連携を進め、博物館事業を協力して開催することができた。	
		課題	・社会の動向と市民ニーズを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習機会を提供していく必要がある。・収集資料を通路に収納棚を設け、当面の対応をしている。くん蒸室の自然系資料収蔵庫への改修が必要である。		・社会の動向と市民ニーズを的確に捉え、企画展を始め各種事業を実施し、市民に多くの学習機会を提供していく必要がある。・日々、寄贈資料があり、これに対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまふ。・人文系資料の他、自然系資料も増えているため、収蔵場所を考えていかなければならない。・博物館の市内の学校利用が思ったほど進まず、学校の利用方法を考えていかなければならない。		・新型コロナウイルスにより、多くの企画や講座が中止となった。代替企画を考えていく必要がある。・日々、寄贈資料があり、これに対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまふ。・文芸館の展示を、企画展などの開催により、元に戻せない状況にある。		・新型コロナウイルスにより、多くの企画や講座が中止となった。WITHコロナの考え方の中で、事業の取捨選択をしていく必要がある。・日々の寄贈資料に対して整理作業をしなければならないが、すぐ対処できず溜まってしまふ。また、収蔵場所が不足している。・文芸館の展示を、企画展などの開催により、元に戻せない状況にある。		(R4・総括評価共通) ・新型コロナウイルス流行を契機に事業の取捨選択を行った。市民ニーズを的確にとらえ、今後は、より魅力のある事業を企画する必要がある。・文芸館の展示を、企画展などの開催により、元に戻せない状況にある。		新型コロナウイルス感染症により離れていった来館者に再び博物館に戻り学習を進めてもらうため、市民ニーズを的確にとらえた学習機会の提供と、それを周知する情報発信の方法を模索する必要がある。	
改革・改善	改革・改善内容		・記念事業で新たに実施した講座・イベントは、今後も視点を変えて継続していく。・調査研究や資料収集を市民研究員とともに進めていく。・モバイルプラネタリウムの公民館分館への出前投影に応じよう、公民館用出前カレンダーをつくり公表する。		・講座・イベントは、これまでの内容を再検討し、中止や新たに開講していく。・収蔵場所については、館外施設も含めて検討していく。・小中学校へ働きかけて、博物館の学校利用を促進していく。		・講座・イベントは、これまでの内容を再検討し、中止や新たに開講していく。・収蔵場所については、館外施設も含めて検討していく。・新型コロナウイルスに影響を受けない、デジタルを使った、配信などを考えていく。・岳麓文芸館の資料整理を行い、常設展に戻していく。		・講座・イベントは、これまでの内容を再検討し、中止や新たに開講していく。・収蔵場所については、館外施設も含めて検討していく。・デジタルアーカイブ構築への検討や、新型コロナウイルスに影響を受けない、デジタルを使った、配信などを考えていく。・岳麓文芸館の資料整理を行い、常設展に戻していく。		・館内の整理を進め、収蔵スペースを確保していく。・デジタルアーカイブ構築への検討やデジタルを使った、配信などを考えていく。・岳麓文芸館の資料整理を行い、常設展に戻していく。		・講座の新設や、視点を変えた企画展・特別展を開催する。・新収蔵資料を随時公開し、学習機会を提供する。・デジタルアーカイブ構築への検討やデジタルを使った、配信などを考えていく。	
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	2		2		2		2		2		2	
		重点事業	1		1		1		1		1		1	
理由			地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展などの形で、市民に提供するため。		地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。		地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。		地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。		地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。		地域の自然と文化に関する資料を収集し、それらを未来に伝えるために保存管理している。その資料がもつ多数の情報を調査研究し、その成果を企画展や刊行物などの形で、市民に提供し、茅野市のまちづくりに反映させるため。	

作成担当者	両角 英彦	柳川 英司	柳川 英司	正木 美香	正木 美香	正木 美香
最終評価責任者	平出 信次	北沢 政英	北沢 政英	北沢 政英	上田 佳秋	上田 佳秋
最終評価年月日	令和元年5月29日	2020年7月10日	2021年5月28日	2022年5月30日	2023年10月18日	2024年7月11日